

キッズバスケットボールルール

キッズの特別ルールは、ミニバスケットボールのルールを基本とするが、キッズがゲームを楽しめることを優先し、バスケットボール本来のゲームのスピード感を損なうようなルールやキッズプレイヤーが理解の困難と思われるルールは、なるべく寛大なルールの適用が望ましいと考えます。

事細かなルールを理解させ、厳しく適用することは望ましくないとと思われるルールにおいて、次のキッズ特別ルールを適用します。

(1) 競技時間

ゲームはハーフ・タイム3分をはさんだ前半・後半各8分とする。各ハーフはクォーター・タイム1分をはさんだ4分ずつとする。各4分を第1、第2、第3、第4クォーターと呼ぶ。

大会によっては、試合回数などの都合でクォーター・タイムの短縮などもすることができる。

※延長について

4クォーターが終了して同点の場合には、2分後に、オルタネイトポゼションルールで2分の延長戦が始まる。個人ファール、チームファールなどは、4クォーターの続きとなる。チャージド・タイム・アウトは1回請求できる。

延長戦の結果、同点ならば1分後、オルタネイトポゼションルールで再延長戦となる。再延長戦は、2分を計るが、得点を2点先取したチームが勝ちとなる。(フリースローなどで1点では、まだ勝ちとならない。)

再延長戦でも決着がつかない場合は、選抜5名によるフリースロー対決となる。キャプテン同士がジャンケンで勝ったほうが、先攻後攻かリングの方向を選択できる。負けた方は、勝った方が選択しなかった条件を選べる。

5名によるフリースロー対決でも決着がつかなかったら、最初の順番に戻りサドンデスとなる。※選抜5名の中には、退場者も参加してもよい。

(2) フリースローラインは、正規より1m短くする。

ただし、年齢による差が大きいため、2年生以下は次のようにする。

- ・2年生…キッズのフリースローラインをかかとで踏む程度。
- ・1年生…キッズのフリースローラインより、一歩前が出る程度。
- ・小学生未満…どこからでも良い。

(3) 30秒ルール、3秒ルールは、適用しない。

(4) チャージド・タイム・アウトについて

前半、後半、延長時に、1回ずつ請求できる。再延長戦のときは、請求できない。

(5) 選手の交代について

各クォーターのチャージド・タイム・アウト時に交代できる。

(6) キッズ特有の寛大処置について（なかよし・親子リーグについて）

次のルールは、ゲームやチーム、プレイヤーのレベルに合わせ、寛大にルールを適用する。※寛大とは、辞書で「度量が大きく、思いやりがあり、むやみに人を責めないこと。」とあります。キッズは、子供同士の力の差が大きい場合があるので、個人の能力、チーム力を考え、特に「思いやり」のあるジャッジが望ましい。

(A) ラインの踏み越しによるヴァイオレイション

- a. フリースローを打った後の踏み越しを寛大に適用する。
- b. サイドライン、エンドラインの踏み越しはヴァイオレイションとする。
 - ①スロー・インする時にラインを踏んでもよいが、コートの中に入ってはいけない。
 - ②コートの中にいるプレイヤーは、そのプレイヤーがコートの外に出た時や、コートの周りのラインにふれた時にアウト・オブ・バウンズのヴァイオレイションとなる。
 - ③ボールがコートのライン、またはコートの外の床や物にふれた時にアウト・オブ・バウンズのヴァイオレイションとなる。

(B) 5秒ルール

すべての5秒ルールヴァイオレイションを寛大に適用する。

(C) トラヴェリング

- a. ピボットフットが定まらず、両足とも、ばたばたしている状態を寛大に適用する。（シュートがブロックされたあと、そのまま着地した場合も、ばたばたしている状態とみなす場合もある）
- b. ボールのもらい足、パスを出すとき、ドリブルの突き出し、ドリブルの終わりによるトラヴェリングを寛大に適用する。

※ラグビーのように、あきらかにボールを持って走っている状態はトラヴェリングとする。

(D) ダブル・ドリブル

ドリブルの継続中のダブル・ドリブルを寛大に適用する。ただし、ドリブルが終わってボールを保持してからの再ドリブルは、ダブル・ドリブルのヴァイオレイションとする。

(E) 勝敗に関する寛大処置について

完全に力の差があり、大差の得点(20点差を目安とする)の開きが生じた場合には、審判、両コーチはゲームが楽しめるよう配慮する。

(8) 親子特有のルールについて

①チーム編成

2年生以下の児童・幼児と親(保護者・コーチ等)で編成し、コート上の5人のプレーヤーの中には必ず1人か2人の親(保護者・コーチ等)が入らなければならない。したがって、選手は3名以上となる。

②親のプレーの制限

ア シュートをしてはならない。

イ ディフェンスをしてはならない。

ウ リバウンドボール、ルーズボールに触れてはならない。

エ フロントコート、バックコート共に制限区域内に入ってはならない。

オ ドリブルはしてもよいが1回につき1つしかできない。

※転がしたり、2バウンドさせた場合はルーズボールと見なす。

カ 親と親とのパスはしてはならない。

キ 5秒ルールの適用。

※上記に違反したらバイオレーションで相手側のスローインとなる。

※スローインは親が行っても良い。

(9) 平成26年度より適用されるルールについて

(A) バックコートでの審判のボール保持について

ミニのルールの変更に伴い、これまでの中学校以上のルール同様、バックコートでも審判はボールを保持する。

※ミニは、30秒ルールの変更に伴いこのルールが適用となるが、キッズは、30秒ルールは適用しない。

(B) 選手の出場について

チャンピオン・チャレンジリーグにおいて、登録選手は、1試合に必ず1クォーター(4分)以上出場させなければならない。違反した場合は、没収試合とする。

※このルールは以前からあったが、曖昧に適應していたため、今年度より厳格に適應する。また、ベンチ入りメンバーが登録と異なる場合は、理由を含めて審判と相手チームに報告する。なかよし・親子リーグは努力目標とする。

※今回の特別ルールは、H26年5月の理事会で確認したことを元に、これまでのルールを整理し直しています。